

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.09.No229

9月号

目次

建築お仕事体験の価値と成果……1
道士会の動き……………3
特集 北海道建築士会 会員作品紹介 2016……4
ブロック会報告……………6 [道央・道北]
Coffee Break……………7
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>

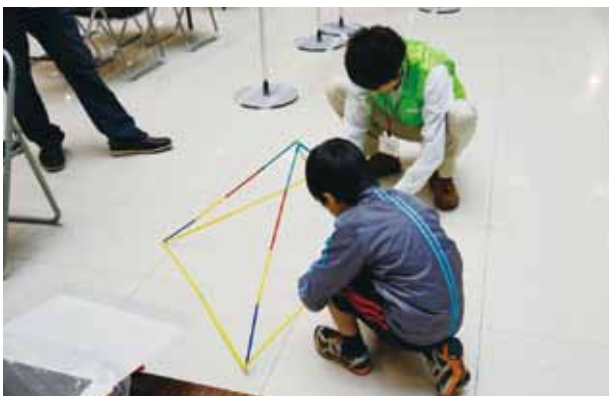
建築お仕事体験の価値と成果

青年委員会 委員 小林 祐 司 (札幌支部)



2016年6月18日、19日に毎年恒例となっている「建築お仕事体験」イベントを開催しました。6月中旬でも半袖だと肌寒さを感じる土曜日の早朝に全道各地から青年建築士が集まり、荷卸から搬入・設営までを慣れた手つきで進め、滞りなく10時からイベントをスタートさせました。新札幌サンピアザ光の広場で開催した本イベントは今年で4回目になります。さすがに4回目ともなると新札幌でも馴染みのあるイベントとなりつつあることを、運営側からも大いに感じるがあります。今年のイベントでは一つ、とても大きく印象に残った出来事がありました。

18日、光の広場がオープンしてすぐに、小学校中学年程度の男の子が母親とやってきました。早速ストローでフレーム作りを始めたのですが、その真剣な様子に我々青年も興味を引かれ、ちょっとアドバイスがてらお手伝いをしてあげました。



将来建築士になりたいと語った男の子

そこで男の子に色々話を聞いてみると…、なんと将来建築士になりたいと言うではないですか！こんな話を聞かされては我々も俄然やる気が出てきます。「子供の一時の感情だとしても嬉しいなあ」なんてことを思いながら見ていると、男の子のお母さんから真剣な面持ちで、息子が本当に建築士になり

たがっていること、どうしたらなれるのか、建築士になるために今から何を勉強させたら良いか、ということを相談されました。

この時私は、足掛け5年、ずっとこの「建築お仕事体験」に関わってきて初めて、ある確信を得ました。青年建築士として「建築お仕事体験」をやってきた事に「価値」があったと。このイベントは内容からすると、ともすればただの「遊び」で終わってしまう恐れを以前から心の隅で感じていました。本来の目的は子供達に楽しく「建築」に触れてもらうこと、身近に「建築士」や「建築士会」という存在があることを知ってもらうことです。ただの遊びにならないために、毎年工夫や新しい試み、改良・改善といった手間をかけてイベントに臨んでいます。

そういった手間を含めた我々青年建築士の取り組みが、この男の子の夢の手助けになるかもしれない、そんな可能性のある取り組みなんだ、と思えたのです。少なくとも我々青年建築士が「建築お仕事体験」をやり続ける限り、男の子は建築や建築士に接する機会を得ることができるでしょう。



会場の様子

それでは改めて、今年度の「建築お仕事体験」の内容についてご紹介いたします。

今年はお仕事内容について刷新と見直しを図り、「ブロックでお家をつくろう」の面積を2倍に増やしました。「折り紙建築」、「パズルで間取りを考えよう」、「ストローでフレームを考えよう」は引き続き実施しました。建築士会活動パネル展示や建築士会PRビデオも引き続き設営しています。



ストローフレームのお手本



ブロックで作られたカラフルなお家

そして新しい試みとして「ライブイベント 紙は人を支えられるかな?」を実施しました。ダンボール紙を数種類用意して、丸や四角の柱にしたり、ジグザグに折って壁にしたものを、自由に配置します。その上にアクリルパネルを重ねて、人がどれくらい乗れるか挑戦するというもので、元々は愛知県の青年建築士が実践している地域貢献活動の一つです。



もうすぐ2歳になる私の娘も興味津々

いざやってみると、子供達もすぐに寄ってきてダンボール紙をいじりはじめました。さあ乗ってみよ

うと声をかけ、どんどん子供達を誘導します。そして限界が来たところでグシャっ、その時、会場に子供達の歓声が響きます。



子供達がパネルに乗る様子

18日・19日と2日間に渡り、不定期でこのライブイベントを行いました。すぐに子供達が集まってくるので楽しんでダンボールを組み立てていました。こうした新しい試みは今後も実践していく予定ですのでご期待ください。

さて、今年度の総支払いチーク数（※チークはイベント用の仮想通貨）ですが、1095となりました。昨年は1500を越えていたので減ったこととなりますが、昨年と違い、それぞれのお仕事にかかる時間が増えているので、常にどのテーブルも子供達で埋まっている、という印象です。私自身、2日間通して、「あ、あの子、今年も来てるなあ」と何度か見かけた子供がちらほら。着実に地域に根付いてきてることを実感しつつ、今年も無事「建築お仕事体験」は幕を閉じました。

昨年はこのようなイベントを全道各地で行いました。子供達に向けた青年の地域貢献活動は拡がりつつあります。こうした活動を継続していくことで、地域に根ざした北海道建築士会自慢の地域貢献活動となるよう努力を積み重ねていきたいと思えます。

末筆ではございますが、本イベントの会場を貸していただいた札幌副都心開発公社様、ご協賛いただいた東西アスファルト事業協同組合様、ならびにご後援いただいた札幌市様と、本イベントに向けて協力してくれた青年建築士の皆さんに、心より御礼申し上げます。来年もご期待ください。



イベントを手伝ってくれた青年建築士の皆さん
全道各地からこの日のために集まってくれています。

平成28年度応急危険度判定士認定講習会のご案内

今年度も、下記日程で開催を予定しておりますので、皆様の積極的な受講をお待ちしております。なお、今年度の更新対象の方へは直接ご案内しております。認定証の有効期限が切れている方、新規で受講希望の方は、各支部または本部事務局で配布している受講申込書にて本部事務局へ申込みください。（支部での受付はいたしません。）また、開催日が未定の会場については、決まり次第、本会ホームページにてご案内いたします。

講習会の詳細及び受講申込書ほか各種様式のダウンロードは、本会ホームページ（<http://www.h-ab.com/>）に掲載しております。

開催地	開催日	会場名	開催地	開催日	会場名
札幌市	H28.10.24(月)	北海道第2水産ビル 8階	浦河町	H28.12. 2(金)	日高振興局 201号会議室
室蘭市	H28.11. 7(月)	胆振総合振興局 3階大会議室A	帯広市	H28.12. 7(水)	十勝総合振興局 3階講堂
倶知安町	H28.11.10(木)	後志総合振興局 2階講堂	釧路市	H29. 1.20(金)	釧路総合振興局 3階会議室
北見市	H28.11.11(金)	オホーツク木のプラザ 研修室	旭川市	H29. 1.27(金)	上川総合振興局 3階講堂
根室市	H28.11.11(金)	根室振興局 3階大会議室	江差町	H29. 2. 2(木)	桧山振興局 3階301会議室
函館市	H28.11.17(木)	渡島総合振興局 402会議室	苫小牧市	H29. 2. 6(月)	苫小牧市職員会館 304号室
留萌市	H28.11.22(火)	留萌振興局 3階入札室	札幌市	H29. 2. 9(木)	かでの2・7 820研修室
岩見沢市	H28.11.22(火)	空知総合振興局 5階会議室	稚内市	H29. 2月予定	宗谷総合振興局 会議室

※注）認定講習会と同時に開催する応急危険度判定机上訓練、コーディネーター研修の詳細（申込）については、開催地の（総合）振興局建設指導課建築住宅係へお問い合わせ願います。

青森県士会大会「弘前」で開催

副会長 吉木 隆

平成28年度（一社）青森県建築士会弘前大会が7月9、10日に「彩発見伝統文化と技の伝承」の大会テーマのもと開催されました。会場のヒロロ3階では、弘前市と西目屋村の小学生から応募があった“こんな家にすんでみたい「青森の住宅」コンテスト”の895点の全作品が展示され、親子連れだっただけで自分の作品の前で誇らしげに鑑賞していました。今年で4回目となり、まちづくり、女性、青年の三委員会が合同主催しています。

ヒロロ4階のホールで式典に先立ち「青森の住宅」コンテストの金・銀・銅・まちづくり委員長賞の37名の子供達が川島会長から表彰状と副賞を嬉しそうに受け取っていました。応募した全員に参加賞が渡されるということです。

式典では地域貢献活動報告が青森支部「建築ウォッ

チ」と南黒支部「デザインコンテストの継続実践によるカタチになったまちづくり」の報告がありました。特に南黒支部の活動事例が「青森の住宅」コンテストの基になっています。記念講演は一般市民も参加して、弘前文化財保存技術協会今井理事長が「古都弘前の風格を彩る伝統と技」で講演されました。“お城とさくらとりんごのまち”弘前の変遷から趣のある風景・建物及び前川国男設計建物の保存を熱く語り、ヘリテージマネージャーへ強い関心を示していました。懇親会は弘前パークホテルで盛大に開催されました。



平成28年度東西アスファルト事業協同組合からの助成を活用した委員会活動について

今年も200万円の助成が決まり、委員会活動に協賛・支援をしていただくことになりました。

東西アスファルト事業協同組合様では、平成26年度より事業エリアごとにその風土や地区性を踏まえた広告宣伝事業活動が実施されており、地区の主体性をもった活動が推進されております。

今年で3年目となる平成28年度の助成対象事業は次の事業です。情報委員会では、地域情報の発信などに見て楽しめる紙面づくりを目指し、魅力ある情報誌とするため「北海道建築士」のカラー化を図ります（助成14万円）。まちづくり委員会では、一般の方々を対象に景観まちづくりを守り育てていくことを目的に「景観まちづくり塾」を開催します（同18万円）。青年委員会では、未来を担う子供たちに建築への興味とともに建築士になりたいと思ってもらうことを目的に「建築

のお仕事体験イベント」やこの助成の発端となった「木で遊ぼう！マイはし作り体験」を実施します（同36万5千円）。女性委員会では、高等学校の家庭科授業においてライフスタイルや住環境を考え、住まいへの関心を高めるきっかけづくりを行う「建築士による家庭科等住教育出張講座」を実施します（同82万5千円）。被災地応急支援委員会では、益々重要となっている応急危険度判定など支援活動に係る資機材の整備や避難所運営（HUG）に関する訓練を実施します（同16万円）。会員増強特別委員会では、1級・2級及び木造建築士の新規合格者の方々にセミナー及び免許証授与式を開催します（同31万円）。最後にヘリテージマネージャー特別委員会では、道内各地の文化遺産の活用活性化といった事業活動の紹介を行います（同2万円）。本年もこの助成を有効に活用して委員会活動を進めます。

建物概要

所在地：登別市若山町 建物用途：診療所 構造規模：木造 地上 2階建
延床面積：983.98㎡ 建築年：平成28年3月

設計の意図等

いつも患者さんの思いを忘れずに、最良の医療を提案する事を目標に、腎外来・内科 腹膜透析外来糖尿病性腎症外来 腎移植後外来を診療科目とする透析ベット32床「内個室2」のクリニックです。

玄関は外来患者用と透析診療・内科の患者さん用に分れ待合室もそれぞれ2か所あり、腎不全への予防対策と腎不全の患者さんには最良の医療を提案出来るように、そして居心地良く過ごせるようにホテル並みのクオリティを持った医療施設をめざしました。

内部は木の質感を感じつつ、空間の変化を楽しめるよう縦格子の壁面を一部採用、また内部は暗くならないよう、それでいて落ち着いたインテリア・採光・照明を計画した。

透析室は見晴らせるようにナースステーションを配置、それでいてプライバシーを確保する時の為、ベット間にはロールスクリーンを設置した。



写真：上/待合室 下左/透析室 下右/外観

特集

北海道建築士会 会員作品紹介 2016

本誌及びホームページにて募集した会員の皆さんの作品をご紹介します。
今年4回目を迎え、若手からベテラン、様々な分野の建物が集まりました。
創意と技術、個性ある作品を紹介することで、会員の技術力向上、
これをきっかけとしたコミュニケーションづくり～活動の活性化になればと思います。
今後も募集する予定ですので皆さんの作品をお寄せください。
なお、応募作品はホームページにも掲載していますのであわせてご覧ください。

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2016.09.No229 p4・5

あったかい木の家

設計：
山鹿 俊孝 (札幌支部)

アトリエYMG

建物概要

所在地：札幌市 建物用途：専用住宅 構造規模：木造 地上 2階建
床面積：95.19㎡ 建築年：平成27年2月

設計の意図等

施主は母と娘の二人。「とにかくあったかい家を安く作りたい」「木が好きなので、外にも内にも木が見える家になりたい」という要望を最大限に取り入れ、文字通り「あったかい木の家」をローコストで作った作品です。

具体的なプログラムは、互いに干渉しすぎず仲良く暮らせる空間づくり。全ての部屋が大きな吹抜けにつながっています。ここに仕切りはありませんが、天井の高さによって空間があいまいに性格づけされ、中央にある階段の上り下りというアクティビティが生活にリズムを生み出します。女性だけなので、プライバシーを守りながらも開放的にするべく開口に配慮しました。

周囲にタイルなど硬い素材が並ぶなかで、この家は街に向かって自然素材を使った「木の家」を表すデザインです。木製の箱の側面と屋根を金属板で覆う構成で、道路と庭には大きな木の壁を見せながらも、密接する隣家と空に対しては金属板でガードされています。

また、道路からのセットバックと建物高さを抑えているため、この家の周囲は空が広がっています。



写真：上/光が降り注ぐリビング 下左/吹抜けと階段 下右/道路に面した外観

建物概要

所在地：函館市大手町 建物用途：飲食店 構造規模：鉄骨 地上 1階建
床面積：98.53㎡ 建築年：平成27年12月

設計の意図等

建物建設地は戦後の商業地で栄えた、函館駅を經由する電車道路沿いの電停前にある。函館市内の移動手段は車がほとんどで、近くの買い物でも車を使う。電停は所在地の説明にしか使われない。車窓からの景色、瞬間的に切り取られる街並みに、建物をシンプルなフォルムで人を振り向かせることが必要だった。要求と提示された限られた予算、女性や車椅子でも対応できる優しさ、コーヒーが大好きな施主の店が次の課題だった。コーヒー豆を輸入し焙煎し販売する。施主オリジナルのミキシングされたコーヒーの味も店の空間には必要な要素であった。店内で女性客が映えること、商品が生きること、コーヒーを飲みながら時間を忘れてしまう空間・シーンをデザインの基本に考えた。結果、この広さと高さや質感と色彩になった。



写真：上/電車道からの外観 下左/カフェテラス 下右/カフェの内観

函館駅前広場イルミネーション 冬のいさり火

建物概要

所在地：函館市 用途：イルミネーション
建築年：平成27年12月

設計の意図等

イルミネーションデザインは、「アースワーク」だと考えます。つまり、その場を訪れなければ体験することのできない、「その土地ならではの演出」でなければなりません。私たちは今計画のデザインモチーフを函館にしかないものに徹底的にこだわり、「豊かな海」「函館山」「夏のいさり火」「道南杉」の4つを選びました。これら4つのデザインモチーフから全長80メートル、最高高さ6.3メートルの壮大な「光のパサージュ」を、北海道新幹線からの来函客を歓迎する函館駅前空間に創り上げる計画です。

道南杉によって構成される、函館山の愛称「臥牛」の稜線をモチーフとした美しい3次曲面を持つ構造フレームは、杉の温もりとともに冬期間の観光客を暖かく迎えます。



写真：上/東側より見る 下左/日中の姿 下右/内部を通り抜ける

あさひかわ北彩都ガーデン 「ガーデンセンター」

建物概要

所在地：旭川市宮前 建物用途：ガーデンセンター
構造規模：木造 地上 1階建 床面積：381.14㎡ 建築年：平成27年1月

設計の意図等

この建物はあさひかわ北彩都ガーデンの宮前公園西エリア内に位置し、JR旭川駅からは大池プロムナードを通りアプローチします。

このエリアは旭川のガーデン文化を発信する場所と位置づけられており、その方針に呼応するよう建築を計画しています。建物周辺におけるガーデンのデザインは緻密なものとなっており、そこから空間が連続するように多様な半屋内空間を設けています。建物内部はガラスを多用することで、外部との連続感をつくり、美しいガーデンとの一体的空間の魅力を来訪者に訴えます。

外壁には煉瓦調タイルを採用することで、国鉄の施設が並んでいたこの場所の記憶と旭川市の公共施設が創ってきたスタイルを継承し、同時に主役である植物が映える意匠とします。内部は壁に道産木材の構造用合板を表しで採用し柔らかな雰囲気をつくっています。

この場所から旭川らしいガーデン文化がまちに浸透することを願っています。



写真：上/外観(夜景) 下左/内観 下右/外観

一からのスタート

道央ブロック会

統括理事 長谷川敏文（札幌支部）



道央ブロック会会議の報告です。

平成28年6月4日、ホテルポールスター札幌において開かれた「平成28年 支部長・支部事務局長合同会議」の後、同会場において、平成28年第1回目の道央ブロック会会議を開催しました。札幌支部・小樽支部・恵庭支部・後志支部・千歳支部・岩内支部・石狩支部・余市支部・北広島支部・古平支部、道央ブロック会に属している全10支部からの支部長及び各事務局代表者に、オブザーバーの吉木副会長を含め17名の参加でした。

第1回目の今回は、特にテーマ・議題を設けず、各支部の事業活動内容を基に、道央ブロック会に属している他支部との協同あるいは連携・支援の可能性を検討しました。

会員の高齢化と共に、新規入会数も少ないため、会員数微減の状況はいずれの支部も同じです。会員増強のためには、魅力ある事業を継続的に提供することが有効な手段であることは勿論のこと、事業そのものの盛り上がりの印象度も重要であることを確認しました。

問題点として挙げたのは、提供する事業が、建築業に携わっている経験値や技量が異なる会員にとって、一様に有益であるか否かの見極め方の難しさです。北海道建築には必須で、道外の地域に比べて高度に標準化されている省エネルギー技術分野の事業であれば、その難解なテーマの糸口に辿（たど）り着き易いとは思われます。

それ以外の事業は、それぞれの支部の地域経済の事情や習慣、また、各会員の業務における必要性や有効性が異なるため、同様に興味を持っていただけるとは評価できません。広域であることが関与する独特の地域性が障壁の一つと思われます。その実情の紐解きから始めることとし、道央ブロック会として協同事業を立ち上げる「一からのスタート」となります。

定年退職を機に、会員が退会に及ぶことについては、入会していることに「目的や意味がなくなった」のではないかと発言がありました。指導していただく立場として、特別会員または（仮称）プレミアム会員へと移行していただき、支部会費を一部削減することや、ブロック会独自の特別功労彰、指導者を表す記念品の贈呈などの案が出されました。今後、ブロック会会議において、多くの意見を頂きながら議論を深めていくこととなります。

来年の全道大会・後志大会に向けて、道央ブロック会として協力することを確認して閉会しました。

道北ブロック会の活動動向

道北ブロック会

統括理事 中澤 光夫（旭川支部）



会誌「北海道建築士」第229号の発刊に当たり原稿依頼を受けてから、何も思いつかず早2週間近く過ぎ、「どうしたもんじゃろの～」と考えていると…まず自己紹介をしなければ…と思い、一言ご挨拶申し上げます。

4期8年務められた前石川支部長の時代、2期4年旭川支部副支部長を務めさせていただき、この度、その後任として平成28年1月より支部長として重責を務める事になりました中澤光夫と申します。微力ながら与えられた責務を果たして、会員の声に耳を傾け、「様々な知識が集積する魅力ある建築士会の集団として…」推進のため、尽力していきたいと考えておりますので、皆様方にはより一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、我々の建築を取り巻く環境は、社会経済状況の不透明さや昨年発覚した杭基礎データ改ざん・偽装等で大変厳しい状況にありますが、このような状況であるからこそ、建築関係者が一致協力し困難に立ち向かう事が求められているのではないかと再認識させられます。

道北ブロックの活動については、各支部、ほぼ毎年同様の活動内容で継続されている中、6月4日支部長・支部事務局長会議の開催後、高野会長、本間常務理事、道北8支部参加の第1回各ブロック会議が行われました。統括理事の私にとって初めての体験でありましたが、そのときの各支部における永遠の課題が、「会員増強に対する取り組み」のようです。どこの市町村においても少子高齢化に直面していることから、なかなか増強するという事は難しいようであります。そんな中、近年、建築業界を希望する人が少なくなってきている中、後生につなげていくための一つの打開策の手段として“幼少期から建築に触れてもらう機会をつくり、将来の選択肢に結びつくよう、子どもたちの心に残る取り組みが重要ではないか”と感じた次第でありました。各支部がこのような活動をもっと広めて行かなければならないと共有したところであります。

次期ブロック（10月下旬から11月上旬予定）会議開催は、北空知支部深川市にて行うこととし、また、平成30年全道大会が道北ブロック開催地となることから、「開催地や大会テーマの準備、実施体制の構築」等々の検討について、次期ブロック会議までの宿題として確認し合い、第1回のブロック会議が散会となりました。

小樽支部

キッズクリエイター事業に参加して



青年委員会副委員長
荒谷 優

小樽支部では、7月1日の「建築士の日」にちなみ「キッズクリエイター事業」という活動を行っています。この活動は、ものづくりの面白さや大切さを感じてもらうために、市内の幼稚園や保育所に木工品を寄贈し、園児たちと一緒に塗装作業を行う活動で平成14年から実施しています。

今年度は市内のあおぞら保育園さんにお邪魔して、事前に製作した木製ベンチの仕上げとなる塗装作業を園児達と一緒に行いました。

事前に汚れてもよい服装でとお願いしているので、園児達は衣服や手足が塗料で汚れても気にも留めずに、思い思いに刷毛を動かし、楽しそうに塗装

作業をしてくれました。このような塗装作業を初めて体験する子が多く、参加した園児達にとっては、とても貴重な体験になったかと思えます。また、自分達で塗装したベンチであれば、愛着も湧いて、大事に使ってくれるかなと思えます。

この事業は毎年、平日の日中に実施しているのですが、勤務時間を割いての参加を余儀なくされますが、有意義な活動なので、これからのできるだけ多くの幼稚園や保育園で、実施できればと思います。



ひとつのベンチをみんなでペンキぬり

富良野支部

支部長就任にあたり



支部長
軽米 達也

今年度より支部長となり約半年がたちました。5月21日には青年委員会主催の「建築士の集い」がフラノマルシェ2のタマリーバで開催されました。今回は全国建築士フォーラムの北海道ブロックを決める大会ということで投票の結果、函館支部が代表に選ばれました。全国大会といえば、私が青年委員会の道北ブロック長をやっていたときに士別支部が代表となった「とくしま大会」に参加したことを思い出しました。士別支部ブース展示の応援が目的で参加しましたが、大懇親会での阿波踊りの素晴らしさ、大会に参加していた他支部の会員との交流は今でも

とても楽しい記憶として残っています。

支部の活動としては7月1日の「建築士の日」にパークゴルフ大会、夕方からフラノマルシェ2のタマリーバにて親睦ビールパーティを開催いたしました。抽選会も大変盛り上がり支部会員の交流を深めることができました。

これからも建築士会の活動を通じて会員間の交流を広げていきたいと思えます。



親睦ビールパーティの様子

笠原爺ィの釣り日誌

～DNAと背後霊「魚釣り八十八ヶ所」の巻～

7

出発 2

ハハアーン、間抜けな人間が「さぞかし旨かる、魚も、キツ喰いつくッ、」と買って行くワケか！。

こりゃ、魚を騙すんじゃなく「人間、騙す餌」だよ。騙されて買って行く奴の顔が見たいねッ。「エッ、爺ィも買ったってエ？、アホだね～ッ。狸が騙されてドーする！。全く、素人は、ショーガナイッ。

一路、北を目指して、

狸は1人ニヤニヤ、コンビニで「自分の餌」も、色々仕入れ、朝、家を出たのに、道草食って、札幌出たのは、午後2時過ぎ、慌てて、高速に乗った。

「それ始めるなら、一番札所は「日本の再北端で」と誘ってくれた「有難い人」の住む「稚内」目指して。

北海道の10月は、もう「紅葉が始まり」、スピード出して通り過ぎるのが、勿体ない程、綺麗だった。

滝川から一般道に降り、留萌を抜けて稚内へ向かった。

この道は「いつか来た道」。2年前「北海道八十八ヶ所（お寺参り）の時、自転車で通った道。

夜になって、天塩から山道へ入ると「熊、鹿、衝突注意」の標識が出た。減速し、眼を凝らし、闇を透かしつづく



道士会の動き

道本部の主な会議報告（8月）

◆第2回青年委員会

〈開催日〉8月20日(土)

- 〈議題〉1) 全道大会(室蘭大会) 青年サミットについて
2) 全道大会(室蘭大会) C分科会について
3) その他

◆第2回まちづくり委員会WEB会議

〈開催日〉8月27日(土)

- 〈議題〉1) 景観まちづくり塾～まちなみ景観ウォッチング～について(東西アスファルト事業協同組合の協賛事業)
2) 全道大会(室蘭大会) 分科会について
3) 高校生建築デザインコンクールについて
4) その他

◆第2回女性委員会

〈開催日〉8月27日(土)

- 〈議題〉1) 全道大会A分科会(はたて漆喰塗り体験)
2) 全道女性建築士の集い
3) 住教育普及推進業務「建築士による住教育出張講座」
4) 連合会
5) 会誌(広報Hokkaido)の企画
6) ブロック活動について
7) その他

◆第1回情報委員会WEB会議

〈開催日〉8月31日(水)

- 〈議題〉1) 第41回全道大会(室蘭大会)について
2) その他

関係機関等会議出席状況（9月）

9月8日 北海道住宅リフォーム推進協議会
平成28年度 臨時総会(札幌)
高野会長出席

道本部の主な行事予定（9月）

- 〈開催日〉9月2日(金) 第4回理事会
〈開催日〉9月7日(水) 監理技術者講習会
〈開催日〉9月30日(金) 第41回全道大会青年サミット

編集後記

北海道の短い夏が終わりを告げ9月、今月号の「建築お仕事体験」のようなイベントを通じて将来の建築士がたくさん増えるとよいですね。

そして、いよいよ全道大会(室蘭大会)が開催されますが室蘭支部のみなさまにおかれましては大会本番にむけての準備など、たいへんだと思いますが大会の成功を祈っております。

情報委員会 鈴木 雅人(釧路支部)

道本部からのお知らせ

(公社)日本建築士会連合会の平成28・29年度執行体制が決定いたしました。

本会から副会長に高野会長、理事に吉木副会長が選出されました。

また、本会から出向する各委員会の委員は以下の通りです。

総務・企画委員会 鈴木副会長
法制度本委員会 牛田常務理事
教育・事業委員会 久島常務理事
まちづくり委員会 針ヶ谷常務理事
青年委員会 工藤青年副委員長
女性委員会 本間常務理事、新海女性副委員長
CPD・専攻建築士制度委員会 鈴木理事

CPD認定プログラム(8月認定)

◆「建築士による住教育出張講座」建築士向けセミナー

〈日程及び会場〉9月10日(土) 13:00~16:30
ソネビル6階(帯広市)

〈単位数〉4単位

◆第41回(一社)北海道建築士会全道大会青年サミット

〈日程及び会場〉9月30日(金) 13:30~17:30
室蘭建設会館(室蘭市)

〈単位数〉4単位

◆第41回(一社)北海道建築士会全道大会分科会

〈日程及び会場〉10月1日(土) 12:30~14:30
蓬萊殿(室蘭市)

〈単位数〉各2単位

◆第41回(一社)北海道建築士会全道大会基調講演

〈日程及び会場〉10月1日(土) 16:50~18:00
蓬萊殿(室蘭市)

〈単位数〉1単位

◆女性建築士の集いin室蘭

〈日程及び会場〉10月2日(日) 14:05~13:30
室蘭駅 他(室蘭市)

〈単位数〉2単位

〈上記プログラムに関する問合せ先〉

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

平成28年熊本地震被災地へのお見舞いについて

本会理事会並びに支部長・支部事務局長会議で承認されました熊本地震被災地へのお見舞いにつきまして、(公社)熊本県建築士会へ本年6月、お見舞い金20万円を送付し、熊本県建築士会より本会へのお礼をいただいたことをご報告します。

情報委員会委員長/早川 陽子
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人
柏倉 晶憲

北海道建築士 No.229号

印刷 平成28年8月/発行 平成28年9月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番